第３回少子化対策・子育て支援専門部会　議事要旨

日　時：令和５年１月19日(木)10:00～11:30
会　場：県庁４階大会議室及びオンライン

〇委員の主な意見

項目１：若い（就職期の）女性から選ばれるための対策について

・企業ナビとやまの充実について、可能であれば、求人関係の事業を行っている民間企業とも連携できれば、より情報が集まるのではないか。
・女性に大学進学後にまた富山に戻ってきてもらうことを考えると、企業誘致はきっかけとして大きい。今まで部会では議論にあまりなっていなかったと思うが、ここも課題解決には重要だと思う。
・企業ナビとやまは統合することになり進展したと思う。民間でも就活サイトが多くあるので、相互リンクを貼るだけでも流入が増えるのではないか。
・課題①の県内企業で活躍できる環境づくりも大事だが、課題③の業種・企業の増加も大事。IT 系企業等に限る必要はない。新しい風を吹かせてくれる企業が各業種で出てくると刺激になる。
・女子中高生との双方向の交流も大事だと思う。彼女たちの考えを女性管理職も含め知る機会になればよい。企業のことを教えるという意識ではなく、女子中高生から学ぶという姿勢が必要。情報発信の仕方や、若い意見を組み入れていくというやり方が効果的。若者が企業をコンサルするプロジェクトを実施した県では、転出超過の男女バランスが逆転したものもある。その県は大都市があるのに女性が大きく減っていたが、事業３年目にして男性の定着率を超えて女性の定着が進んだ。
・企業ナビとやまの運営をいっそ女子高生、大学生に任せて、それを目玉として発信するというのもアイディアとしてあるのではないか。
・個人情報の管理は県で行い、デザインや見せ方のところを学生に任せるとかにすれば、それ自体が PR になる。尖った取組みをやっていければよい。
・学生を「企業ナビとやまナビゲーター」に任命して発信するとか、PR が重要。
・女子中高生向けの事業について、数値目標の設定が重要。
・保育事業者として、よい取組みをもっと PR していく必要があると思う。不適切保育事例ばかり取りあげられるが、ほとんどの事業者はちゃんとやっている。当保育園ではユーチューブでの発信も始めたところ。都会の保育士で U ターンしたいと思っているが、県内にどんな保育所があるかわからないという話も聞くので、情報が都市部まで届くようやっていきたい。
・企業の働き方改革・意識改革について、経営者が変わらないと変わっていかない。第一弾として、県内の社長全員が変わるようなエッジを効かせた取組みができないかと思う。例えば、社長向けセミナーを開催し、「富山県の社長は女性社員を応援します」などのキャッチコピーと参加した社長を掲載したポスターを作って、社内で貼ってもらうことはどうか。あまり経費をかけずに発信することができるのではないか。
・　ターゲットが 18～22 歳の女性とはっきりしているので、そこに刺さる施策が必要。専門部会（戦略会議）なので、全体をどうするかを議論するのでは

ないと思っている。

項目２：子育て世代から選ばれるための対策について

・「働きながら子育てをするなら富山県」という表現には違和感がある。女性が働く、働かなければならないという方に寄りすぎではないか。ウェルビーイングや自己実現が先に立つように、「子育てしながら自己実現するなら富山県」くらいの方がいいのではないか。
・これまでの議論を踏まえ、この表現になった部分もある。若い世代では、働くことで自己実現を感じていることもあると思う。自分の理想とする働き方で子育てもできて、という趣旨が伝わればよい。ただし、反発が出る可能性もあるので、丁寧な説明が必要。
・子育てに関しては、「働きながら」と思っている人の方が多い。専業主婦を希望している人は１割もいない。
・「働くのも子育てするのも自由な富山県」、「あらゆるライフデザインをかなえます富山県」といった表現もあるのではないか。
・働きながら子育てするのは女性だけでなく、男性へのメッセージでもある。女性からするとひっかかる部分があるのもわかるが、男性に向けては、働きながら子育てというのは、家事・育児をしながらでも出世できるよ、という発信にもなる。
・富山県は、高齢化が非常に進行し古い世代の価値観、声が大きい県なので、男性にも女性にも響くメッセージ性があるものの方がよいのではないか。
・「あらゆるライフデザインをかなえます富山県」は、子育て支援にも取り組んでいることが分かりにくくなるという懸念もある。
・中途採用者の面接を 100 人くらいしたが、ほぼ全員が、「子育てしながら働きたい」との意見だった。男性からも、「子育てを（半分）やらないといけない。それができる企業を探している」という声もあった。そういう人に刺さる発信が必要だと思う。
・「働きながら子育てができるエリアに人が流れている」というのは事実。「結婚のため仕事を辞めて転職する」という男性も多い。少数派の意見も大事だが、若者に刺さる表現にすることが重要。
・保育園を運営している側とすれば、働くと子育てはどちらが先でもよいのではないかと思う。両立支援のためのサービスを具体化していく、全ての子どもが利用できるサービス体系を考えていくべき。
・男性の育児短時間勤務も推進してもらいたい。
・ほとんどの事業において、市町村との連携が欠かせないと思う。連携には時間がかかる印象があるので、よりスピーディーに実現するようにしてもらいたい。
・病児保育の ICT 化について、今回はこれでよいが、可能であれば、病児保育だけでなく、ファミリー・サポート・センターや一時保育、産後ヘルパーなど、あらゆるサービスの空き状況が１つの窓口から見られるようにしてもらえるとよい。
・戦略として、流出させないということに特化するのもありかとも思う。また、例えば、シングルマザーを受け入れるとか、流入を促進することも必

要。次に向けて、異次元の戦略的な動きができるのではないかと思う。